

ハタ類2種（チャイロマルハタ、ヤイトハタ）の飼育

嘉数 清、新里喜信

1. 目的および内容

チャイロマルハタとヤイトハタが増養殖対象種として適当かどうかを探るため、昭和60年6月から飼育してきた。その結果、これらのハタ類はかなり丈夫で成長も早いことが分かり、養殖対象種として好適ではないかと思われた。放卵・放精はまだ確認されていない。

2. 方法

材料として用いた魚は、民間業者がフィリピンから幼魚を取り寄せ飼育していたものをゆずり受けたものである。昭和60年6月10日にチャイロマルハタ6尾（平均体重765g）とヤイトハタ2尾（平均928g）を飼育棟内の4トンコンクリート水槽に収容し、トビウオ、テラピア等の雑魚を餌料として飼育した。水槽内にはコンクリートブロックで隠れがを作り、注水は1日に3回転ぐらいとなった。

3 結果と考察

体重の測定結果を表1と図1に示した。飼育魚の個体識別をした訳ではないが、表1では各測定日ごとに体重の大きい順に並べて記録し、図1では線で結んで示した。2年余の飼育期間中にへい死したのは、チャイロマルハタの1尾だけで、これらの2種はいずれも丈夫な魚といえることができる。

成長については図1と表1から分かるように、昭和60年6月10日から同年7月17日までと、昭和61年7月7日から同年10月9日までの間は比較的順調に成長した。それは、この期間はほぼ毎日給餌をしたが、その他の期間は給餌が不規則となり、飼育管理が極めて不十分となったからである。61年7月7日から同年10月9日までの3カ月間の成長をみると、ヤイトハタは平均体重が1,725gから2,170gとなり、1カ月当たり100～200gずつ成長した。チャイロマルハタは平均体重が1,710gから2,390gとなり、1カ月当たり200～300gずつ成長した。この間の増肉係数は、給餌量に対しては5.9～8.9、摂餌量（給餌量から残餌量を減じた量）に対しては4.3～5.7であった。なお、摂餌量は安定せず、日間給餌率3～6%で残餌が多かったりなかったりして、適切な給餌管理を確立することは今後の課題である。

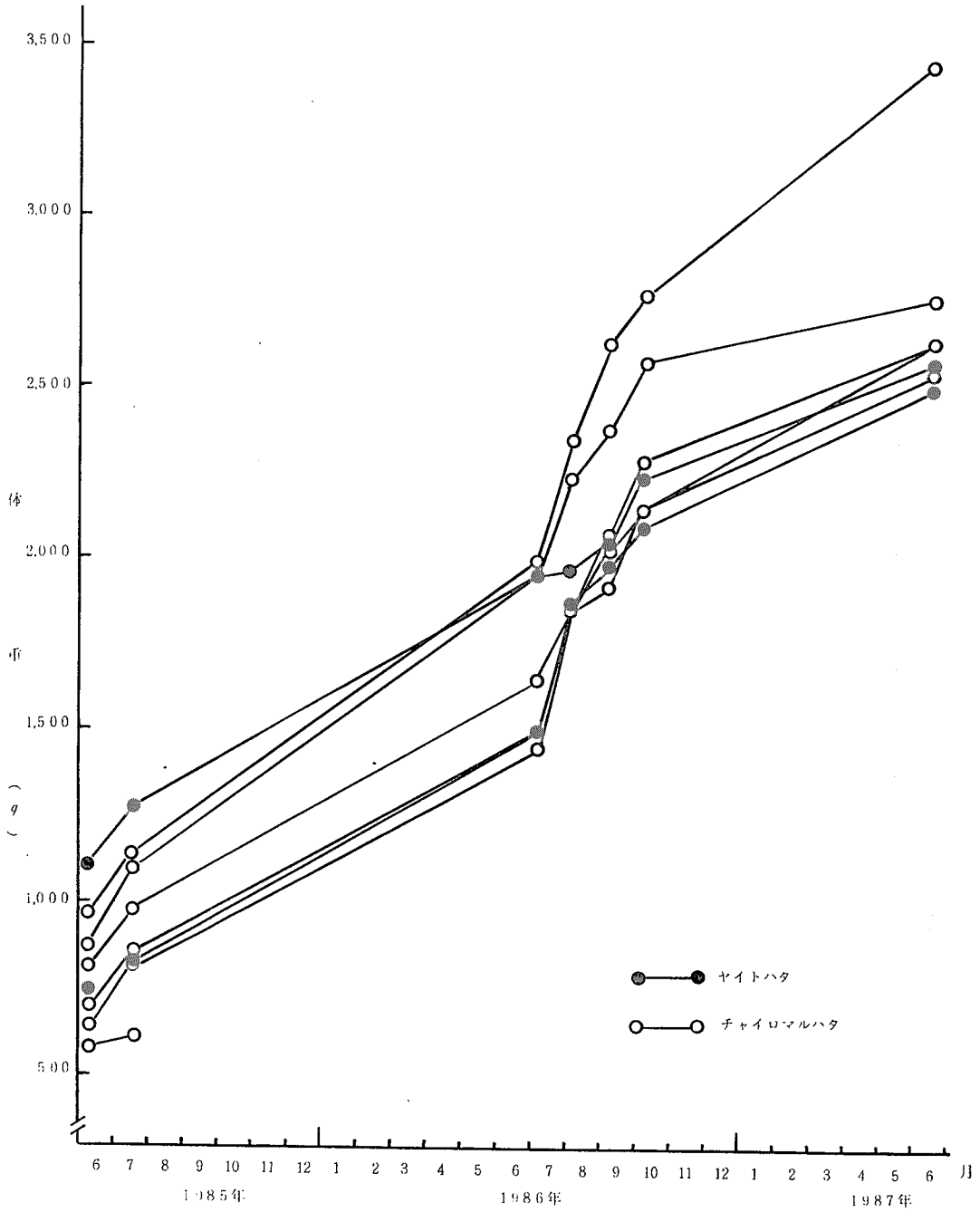


図-1 ハタ類2種の成長

表一1 ハタ類2種の成長(体重g)

測定月日	60. 6. 10	60. 7. 17	61. 7. 7	61. 8. 6	61. 9. 8	61. 10. 9	62. 6. 18
ヤイトハタ No.1	1,110	1,280	1,950	1,970	2,065	2,240	2,480
” No.2	745	825	1,500	1,880	1,980	2,100	2,400
” 平均	928	1,053	1,725	1,925	2,023	2,170	2,440
チャイロマルハタ No.1	975	1,145	2,000	2,350	2,635	2,780	3,450
” No.2	875	1,100	1,950	2,240	2,385	2,580	2,760
” No.3	820	980	1,650	1,860	2,075	2,290	2,640
” No.4	700	855	1,500	1,850	2,035	2,150	2,640
” No.5	640	815	1,450	1,850	1,920	2,150	2,460
” No.6	580	610	-	-	-	-	-
” 平均	765	918	1,710	2,030	2,210	2,390	2,790